



をたはら修し

書籍紹介

『食の戦略』鶴岡市の事例も紹介

金丸弘美・著

「食の戦略」で人も地域も社会も豊かになるということをも具体例を挙げながら紹介している「里山産業論―『食の戦略』が六次産業を超える」（角川新書）が今月10日に刊行される。イタリア、フランス、鶴岡市、島根県の離島・海士町あまちようなど、地域の「食」を基盤に風景、食べ方、学校給食、消費者

との接点を重視しながら、人材を育て経済を回し、活性化に成功している事例を具体的に取り上げている。

著者の金丸弘美さんは1952年佐賀県生まれ。食環境ジャーナリスト、食総合プロデューサー。食からの地域再生や食育、食のワークショップなどをテーマにした全国各地の新しい取り組みを、運動と実践と出版を通じて広く伝えている。

著書に「実践！田舎力 小さくても経済が回る5つの方法」（NHK出版新書）などがある。

今回刊行された「里山産業論」では、第四章「食文化を読ませる」（125―140ページ）の中で、日本で初めてユネスコ食文化創造都市に認定された鶴岡市について触れている。見やすく分かりやすい在来作物のレシピ集出版や、生産者などを紹介するホームページ、地域産品を保証する「地理的表示」など、庄内の「食文化」を大切につないでいこうという鶴岡市の取り組みを、食文化を明確に発信する極めて意識の高い取り組みとして紹介している。

里山産業論
「食の戦略」が六次産業を超える

金丸弘美

食で稼ぐ

社会を変える最重要産業。それはメシ！

ロングセラー「田舎力」の著者による、希望とやる気が湧く最新レポート！

定価：本体2000円（税別） 角川新書

00円（税別）。